

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】			
主 管 課	教育委員会	記 入 者	横山 雅伸
広域圏計画	第 部 第 章 第 節 第 項	事務事業名	教育委員会開催事業
施 策	第		
実施根拠・根拠法例等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第2条及び第14条		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 法定事業 <input type="checkbox"/> 単独事業 <input type="checkbox"/> 内部事業		評価区分 <input type="checkbox"/> 評価事業 <input checked="" type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実 施 方 法 等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第2条及び第14条に基づき、教育研究センターの事業の方向性等を協議するため教育委員会を設置している。		

【事業実績等】					
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠
		目標値	実績	達成度	
1 教育委員会の開催回数	3	-	3	-	
2 審議議案件数	8	-	7	-	
3					

【事業費等】							(単位：千円)
区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備 考	
事業費内訳	予算・決算額	181	231	170	226	226	
	財 国・県支出金						
	地 方 債						
	そ の 他						
人件費	従事職員数	0.07	0.29	0.29	0.35	0.35	
	人 件 費	523	2,036	2,046	2,470	2,470	
	費用合計	704	2,267	2,216	2,696	2,696	

【現状分析及び今後について】	
現状分析	年に3回の教育委員会を実施した。
今後について	今後も法律に基づき、教育委員会を実施する。

【1次評価】	
1次評価	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る
理 由	

【2次評価】	
総合評価	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る
今後の方向性	<input type="checkbox"/> 廃 止 <input type="checkbox"/> 拡 大 <input type="checkbox"/> 休 止 <input type="checkbox"/> 縮 小 <input type="checkbox"/> 終 了 <input type="checkbox"/> 削 減 <input type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 統 合
理 由	

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主管課	教育研究センター				記入者	荒川 弘子
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	理科教育事業
施策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センターの組織及び運営に関する規則第8条					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	理科教材の開発・活用、効果的な指導法についての体験的な研修を実施することにより、教員の理科授業づくりへの意欲の高揚と授業力の向上を目指す。特に、探究型学習の推進に向けた単元計画の作成や観察・実験、ものづくりを中心とした講座を年2回実施する。					

【事業実績等】						
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠	
		目標値	実績	達成度		
1 登録受講者数(人)	94	96	99	103	受講者数(2回で管内小・中・義務教育学校数分)×6講座	
2 受講者の満足度(%)	94	90	92	102	受講者5段階評価「大変満足」の割合(6講座分)	
3 紹介した教材・単元計画・評価問題等	85	72	87	121	1講座につき2単元分以上の教材・単元計画・評価問題(6講座分)	

【事業費等】							(単位：千円)
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考	
事業費内訳	予算・決算額	96	89	381	434	434	評価年度(令和3年度)より、薬品・実験消費費、PC活用費等275,568円を統合して計上。
	財国・県支出金						
	地方債						
	その他						
人件費	従事職員数	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	
	人件費	4,855	4,563	4,586	4,586	4,586	
費用合計	4,951	4,652	4,967	5,020	5,020		

【現状分析及び今後について】		
現状分析	どのような問いかけや活動を取り入れると、見方・考え方を働かせた探究的な学習が展開できるかということテーマとして、子供の立場に立って実際に体験していく講座を仕組んだことで、具体的な授業のイメージを持たせたようだ。オンラインに切り替えた講座が3件(小3、小5、中2分野)あった。野外観察やプログラミングなど訪問での授業支援、指導案検討など若手の先生方への対応も多くなってきている。	今後について 理科の授業づくりで悩んでいる小学校教員は少なくない。また理科教員が一人という中学校も増えている。授業づくりや評価の在り方などの先進事例等を学ぶ場として本研修は有意義であり、継続が必要である。

【1次評価】		
1次評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	理由 評点は46.8。目標は達成されており、オンライン形式で講座を開催するなど、教員の授業支援に活用されている。研修の満足度も高いことから、今後も継続して事業を実施していく必要がある。

【2次評価】		
総合評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合 理由 評点は44.0。継続が必要である。目標を達成し、有効な事業である。

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主管課	教育研究センター				記入者	黒沼 昌志
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	算数・数学教育事業
施策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センターの組織及び運営に関する規則第8条					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	各小中義務教育学校へ学校訪問、及び他機関主催各種研修会において支援を行うことを通して、教員の授業力向上に努める。また、算数・数学に係る調査結果の波及により、教員の教材研究及び解釈についての資質向上に努める。					

【事業実績等】						
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠	
		目標値	実績	達成度		
1 学校訪問校の満足度 (%)	98	85	96	113	訪問校アンケート満足度80%以上【訪問校数40校】	
2 研修参加者の満足度 (%)	94	80	95	119	研修者アンケート満足度80%以上【研修回数11回】	
3 作成資料数	17	15	16	107	管内小中義務教育学校数×1/2	

【事業費等】							(単位：千円)
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考	
事業費内訳	予算・決算額	424	344	325	371	371	令和2年度、令和3年度、先進実践調査研究の研修会がオンラインとなった。
	財国・県支出金						
	地方債						
	その他						
	一般財源	424	344	325	371	371	
人件費	従事職員数	1	1	1	1	1	
	人件費	7,467	7,020	7,056	7,056	7,056	
費用合計		7,891	7,364	7,381	7,427	7,427	

【現状分析及び今後について】		
現状分析	学校訪問は、学習指導要領改訂における算数・数学科のポイントの周知をねらい実施した。さらに若手教員研修等、各学校が実態に合う活用方法で行うことができた。また小・中学校講座は、「数学的な見方・考え方」を働かせる授業づくりのテーマで行い理解を深めた。おもしろ科学体験の算数ブースを設けたところ、参加者全員が内容に満足し、算数の興味・関心を高めることができた。先進実践調査研究では、コロナ禍のため、金沢大学附属中学校のオンライン研修会に参加した。	今後について
		今後も感染状況を踏まえながら各校のニーズに沿った形で本事業が活用できるように進めていく。また、中学校からの訪問要請の増加をねらいたい。あわせてオンライン会議システムを、授業相談でも効果的に利用したい。加えて子どもの体験活動事業を充実させたい。

【1次評価】		
1次評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る
		理由 評点は44.0。目標は達成されており、おもしろ科学体験に算数ブースを設けるなど、算数・数学分野の啓発が図られている。今後も管内各校のニーズに合わせた事業を展開し、継続する必要がある。

【2次評価】		
総合評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る
		今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合
		理由 評点は44.0。継続が必要である。目標を達成し、有効な事業である。

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主管課	教育研究センター				記入者	柿崎 大作
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	科学教育事業
施策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センターの組織及び運営に関する規則第8条					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	おもしろ科学体験、わくわく出前科学教室、最上少年少女発明クラブ活動の各事業を通して、科学のおもしろさやものづくりの醍醐味を味わわせ、科学に興味を持ち、創意工夫の力を持つ科学好きな子どもを育てる。					

【事業実績等】						
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠	
		目標値	実績	達成度		
1 発明クラブ員の出席率 (%)	70	80	70	88	過去の実績より(クラブ員23人)	
2 おもしろ参加者の満足度割合 (%)	100	90	100	111	参加者の9割(参加児童数98人)	
3 わくわく参加児童の満足度(%)	98	95	99	104	期待値として設定(要請校6校、計1,016人)	

【事業費等】							(単位：千円)
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考	
事業費内訳	予算・決算額	128	109	149	137	137	令和3年度、創設50周年記念講演講師謝金、費用弁償を含む。
	財国・県支出金						
	地方債						
	その他						
人件費	従事職員数	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39	
	人件費	2,913	2,738	2,752	2,752	2,752	
	費用合計	3,041	2,847	2,901	2,889	2,889	

【現状分析及び今後について】		
現状分析	科学的なものづくりや身近な題材で行う実験・観察を通して、子供たちの技能と自然科学への関心を高めることができた。発明クラブでは、通常の活動に加え、新庄市商工会議所と連携して最上地区内の企業と活動を行い、職業観を深めることもできた。県の発明くふう展で優良賞3作品、団体賞を獲得した。おもしろ科学体験では、50周年記念事業の一環として山形大学栗山教授のブースを設けたり、大類先生の記念講演を実施した。わくわく出前科学教室では、各校の状況に合わせて内容を実施し、参加者の科学への関心を高めることができた。	今後について いずれの活動も参加者の満足度が高く、活動を楽しみにしている子供が多い。参加者は、諸活動を通して、自然科学への興味・関心が高まるとともに、科学的に考える力も高まっている。今後は日常生活でいきる思考力につながるよう活動を計画していきたい。

【1次評価】		
1次評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	理由 評点は45.6。科学に対する関心を高める事業として展開され、子どもたちの満足度も高い状況にある。発明クラブにおける地元企業との連携など、興味関心を高める工夫が見られる。今後も計画的な事業継続が必要である。

【2次評価】		
総合評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合
		理由 評点は43.5。継続が必要である。目標を達成し、有効な事業である。

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主管課	教育研究センター				記入者	高橋 和彦
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	天文教育事業
施策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センターの組織及び運営に関する規則第8条					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	学習指導要領に準じて、対象学年の天文学習の理解を深めるためにプラネタリウム機器を使って視覚的に学ばせ、天体を含む科学に興味と理解を持つ子どもを育成する。また、地区内の一般の方々を対象に、四季折々の星空を鑑賞し、それにつながる神話や天文の話聞くことで、宇宙に対する関心を高める。					

【事業実績等】						
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠	
		目標値	実績	達成度		
1 学習プラネ利用学校数	23	24	18	75	管内小学校数+中学校数(1/2)	
2 学習プラネ利用延べ人数	1,062	1,062	1,599	151	前年度の利用人数に準じて	
3 プラネ一般開放投影回数	14	23	12	52	年間計画に準じて	

【事業費等】							(単位：千円)
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備考	
事業費内訳	予算・決算額	1,411	1,312	2,275	4,185	4,670	令和3年12月～プラネタリウム機器を更新。令和5年～プラネタリウム機器保守点検費等を計上。
	財 国・県支出金						
	地方債						
	その他						
人件費	1,411	1,312	2,275	4,185	4,670		
従事職員数	0.18	0.17	0.18	0.17	0.18		
人件費	1,344	1,193	1,270	1,200	1,270		
費用合計	2,755	2,505	3,545	5,385	5,940		

【現状分析及び今後について】		
現状分析	管内の17小学校の4年生がプラネタリウムを活用している。更に6年生の学習投影も5校で行っている。中学校3年の利用も3校で144名である。一般投影では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため7回中止した。また、定員を半分に減らし、投影中も換気を行う等の感染防止対策を施した。50周年記念事業として、記念講演「銀河はすごい！」(山形大学 柴田晋平名誉教授)をオンラインで実施した。	今後について 学習プラネは、管内の全小学校4年生が利用するほか、6年生及び中学校3年の利用がある。新型プラネタリウムを導入したので普及活動に力を入れていきたい。

【1次評価】		
1次評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	理由 評点は41.6。新型コロナウイルス感染症の影響により、プラネタリウムの一般投影を複数回中止しているが、定員を半数に減らす、換気を徹底するなどの対応により、学習プラネタリウムの活用が図られた。新型プラネタリウムが導入されていることから、今後は活用促進と普及を含めて事業を継続していく必要がある。

【2次評価】		
総合評価	B A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合
理由	評点は41.5。継続が必要である。	

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主 管 課	教育研究センター				記 入 者	高橋 和彦
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	視聴覚教育事業
施 策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センターの組織及び運営に関する規則第8条					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	16ミリ映写機操作講習を通して、正しい機器の取扱いや活用方法を学ぶ機会を提供する。また、管内の住民の生活や学習に役立てるため、16ミリ映写機等の機器や16ミリフィルム・ビデオ等のライブラリーの貸出を行う。					

【事業実績等】						
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠	
		目標値	実績	達成度		
1 16ミリ映写機操作講習受講者数	1	4	9	225	市町村の半数	
2 16ミリフィルム貸出本数	44	44	61	139	前年度実績による	
3						

【事業費等】							(単位：千円)
区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備 考	
事業費内訳	予算・決算額		18		18	視聴覚の手引き印刷(18480円)は令和4年度で最終。	
	財 国・県支出金						
	地 方 債						
	そ の 他						
人件費	従事職員数	0.03	0.04	0.03	0.04	0.03	
	人 件 費	224	281	212	282	212	
	費用合計	224	299	212	300	212	

【現状分析及び今後について】		
現状分析	予定通り2回の講習会を実施し、利用頻度の多い学童や幼稚園の職員の受講があった。特に今年度の特徴として、高校生の受講があった。16ミリフィルムの貸し出しは、高校生が積極的に上映してくれたので8月を中心に映写機やフィルムの貸し出しが増えている。	今後について 各施設からの貸し出しの要望があることから、地域の視聴覚ライブラリーとしての役割は重要なものとする。さらに新規受講者の開拓の必要がある。

【1次評価】		
1次評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る 理由 評点は41.6。前年度と比べ操作講習受講者数、フィルム貸出本数ともに大きく増加した。高校生による映画上映の影響で周知が図られ、ニーズが増えたものと思われる。新規受講者の増加を図りながら、今後も事業を継続する必要がある。

【2次評価】		
総合評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合 理由 評点は41.0。継続が必要である。

令和3年度 事務事業評価票

【基本項目】						
主 管 課	教育研究センター				記入者	荒川 弘子
広域圏計画	第2部	第3章	第1節	第1項	事務事業名	管理・運営事業
施 策	第	教育研究センター				
実施根拠・根拠法例等	最上広域市町村圏事務組合教育研究センター設置条例					
事業区分	<input type="checkbox"/> 法定事業	<input checked="" type="checkbox"/> 単独事業	<input type="checkbox"/> 内部事業	評価区分	<input checked="" type="checkbox"/> 評価事業	<input type="checkbox"/> 説明事業
事業の目的・内容 実施方法等	安心・安全な施設として、教職員や子どもたちに研修・学習の場を提供するために営繕や管理、備品等の購入・整備を計画的にかつ適切に行う。					

【事業実績等】					
指標等名称	前年度実績	当該年度			目標値設定根拠
		目標値	実績	達成度	
1 修繕件数	7	-	7	-	
2 実験器具等貸出（件）	42	42	27	64	前年度実績による
3 施設利用人数	5,386	5,386	4,531	85	前年度実績による

【事業費等】							（単位：千円）	
区 分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	備 考		
事業費内訳	予算・決算額	2,555	1,869	3,360	3,668	1,094	火災報知機器更新修繕 2,842,400円	
	財 国・県支出金							
	地 方 債							
	そ の 他							
人件費	従事職員数	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25		
	人 件 費	1,867	1,755	1,764	1,764	1,764		
	費用合計	4,422	3,624	5,124	5,432	2,858		

【現状分析及び今後について】		
現状分析	計画通り公用車車検及び点検、火災報知機器更新修繕を行った。老朽化に伴う修繕箇所が3箇所（トイレ流し場蛇口交換、所員室瞬間湯沸かし器交換、所員室照明器具安定器交換）あり、不具合が生じた段階で迅速に修繕することができた。理科備品は、小学校6年理科のプログラミング学習および授業におけるICT活用の研修等で使用するためのタブレットPCを購入した。	今後について 安心、安全で快適な研修・教育施設であるために、今後も年次計画により計画的に整備を進め、教育センターの利用促進を図っていく。

【1次評価】		
1次評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る 理由 評点は40.4。計画的な修繕及び備品管理が行われている。事業費の精査、平準化を図りながら事業を継続する必要がある。

【2次評価】		
総合評価	B	A:期待を上回る B:概ね期待どおり C:期待を下回る 今後の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 削減 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 統合 理由 評点は39.5。継続が必要である。